

はじめに

本県の年平均気温が様々な変動を繰り返しながら長期的に上昇する中、昨年は、猛暑日が観測史上最も多くなるなど、気候変動の影響が顕著に現れており、私たちの暮らしにとって、より身近で差し迫った脅威となっております。また、生成AIの急速な普及により、暮らしや働き方にも大きな変化をもたらし始めるなど、社会の構造自体が大きく転換する中で、持続可能な社会の実現に向けた取組がこれまで以上に重要となっております。

こうした情勢を背景に、本県では、「みやぎゼロカーボンチャレンジ2050戦略」を地球温暖化対策に関する基本方針として、県民総ぐるみによる取組を推進しており、一昨年は、新たに「みやぎゼロカーボン学生アンバサダー」の活動を始動しました。また、「災害廃棄物処理計画」を改訂し、県内初の実地演習を開催したほか、県有施設への太陽光発電設備等の導入を行い、防災・減災対策も強化しました。

さらに、生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ」の実現を目指し、「宮城県生物多様性地域戦略」を改訂したほか、産学官が連携する「みやぎアップグレードリサイクルコンソーシアム」では、イベントで回収したバイオマスプラスチック製容器からキーホルダーを製作するなど、資源循環の新たなモデル構築に繋がる取組を進めました。

令和7年版宮城県環境白書は、環境基本条例に基づき、令和6年度における本県の環境の状況と県が講じた施策の進捗状況を公表するものであり、宮城県環境基本計画で掲げている脱炭素社会の構築、循環型社会の形成、自然共生社会の形成、安全で良好な生活環境の確保の実現に向けた各種施策の取組について掲載しました。

美しい自然に恵まれた本県の環境を守り、未来を担う子どもたちに引き継いでいくためには、県民の皆様一人ひとりの理解と行動が欠かせません。本書を通じて、環境への理解を深め、行動を起こすきっかけとしていただくことを期待します。

令和8年1月

宮城県知事 村井嘉浩